【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成21年5月28日(2009.5.28)

【公開番号】特開2009-8428(P2009-8428A)
【公開日】平成21年1月15日(2009.1.15)
【年通号数】公開・登録公報2009-002
【出願番号】特願2007-167654(P2007-167654)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｃ　21/00　(2006.01)
Ｇ０８Ｇ　1/005　(2006.01)
Ｇ０８Ｇ　1/0969　(2006.01)
Ｇ０９Ｂ　29/00　(2006.01)
Ｇ０９Ｂ　29/10　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｃ　21/00　Ｇ
Ｇ０８Ｇ　1/005
Ｇ０８Ｇ　1/0969
Ｇ０９Ｂ　29/00　Ａ
Ｇ０９Ｂ　29/10　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成21年4月8日(2009.4.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３９】
図４は、ステップＳＴ１０３における処理、すなわち、どの範囲の詳細地図情報をRAM１０５に取り込むかを決定する処理（ダウンロード内容決定処理と以下省略して用いる）の手順をフローチャートで示す図である。図４に沿ってダウンロード内容決定処理の内容を説明する。
ダウンロード内容決定処理は、スタートより開始する（ステップＳＴ１０３１）。
ステップＳＴ１０３２では、操作者が車両に戻るまでの時間の入力をする。入力は操作入力部１０８によって行われ、例えば、５時間３０分のように入力する。
ステップＳＴ１０３３では、徒歩または自転車で、駐車場から所定時間内に往復できる範囲を決定する。
このときに、付加情報を参照して、各々の地域の地勢に応じて歩行速度を勘案し、名所旧跡においては、標準的な滞在時間を勘案し、さらに、操作者が子供か、壮年か、老年かを勘案して徒歩で往復できる範囲を決定するようにしても良い。この範囲は、地図データ上では、緯度と経度で表される２次元座標上の複数の座標点の集合として表される。また、徒歩では無く自転車をレンタルして往復をする場合には、歩行速度に替えて自転車の走行速度として計算して、徒歩で到達できる範囲よりは、より広いものとなされる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４６】

図５は第１実施形態において、ROM１０４に記憶されている広域、中域の地図の情報、RAM１０５に取り込まれる詳細地図情報の領域の各々を示すものである。ROM１０４に記憶されている広域、中域の情報に基づいて、図５に示すように、領域Ｅが表示される。RAM１０５に詳細地図情報が取り込まれる領域としては、領域Ａないし領域Ｄの各々の領域（領域Ａないし領域Ｄの各々の領域は、図５において符号Ａないし符号Ｄの各々が実線で囲まれた範囲内を表す）である。また、ROM１０４が不揮発性メモリとして構成されている場合には、新しい道路等の建設に伴って地図情報が更新されることに応じて、新たな地図情報を適時に記憶更新することができる。